

※このリーフレットは、令和6年度文部科学省委託
 学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業
 「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」
 の取組として作成しました



一般社団法人ケアの方舟
 2025年2月発行



訪問カレッジ 「Be Prau」 I'm here !

“あなたはわたしの誇り”

Be Prauの理念

わたしたちはみな、等しく尊いいのちを生きています。医療的ケアや重い障害を持っている人と接する機会が少ないかもしれませんが、みなさんの暮らす地域にもそのような方々が暮らしているはずです。

ことばによらないコミュニケーションをする人たちも多くいらっしゃいますが、そのような方々にも暮らしがあり、人生があり、歴史があります。大切に思う人がいて、大切に思われています。ことばにならないだけで、広く豊かな内面世界を持ちその方の人生を精一杯生きていらっしゃいます。

Be Prauは目の前のあなたのいのち、自分自身のいのち、すべてのいのちを誇りに思います。そして“あなたらしくいて欲しい”と心から願います。お互いにそのように思いあえる、誇りに思うことのできる世界にすることが使命です。

重い障害を持ちながら地域で暮らす方々の生涯にわたる学びを支援することを通して、お互いのいのちの在り方を知り、気づき、学び合い、地域のなかにゆるやかであたたかな繋がりを築いていきます。

I'm Proud of you !
 Be Proud of yourself !
 Be the world we can be proud of !



“心身がそのままの状態 尊重される”ということ

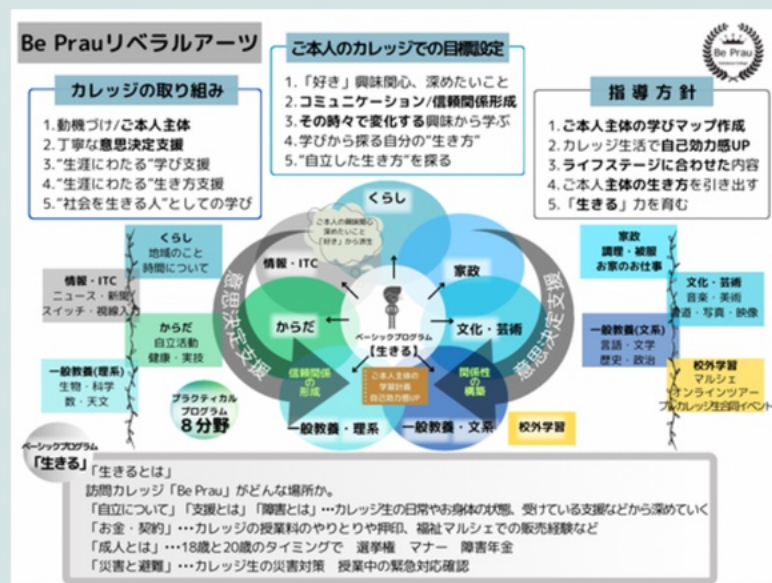
障害者権利条約第17条
 全ての障害者は、他のものとの平等を基礎として、その心身がそのままの状態
 で尊重される権利を有する

超重症児者にとって “訪問型”とはなにか

多くの医療的ケアや、人工呼吸器などの医療機器の使用を必要とする最重度の障害をお持ちの方々は、身体の状態、ケア内容、スケジュールなど全てにおいて個別性が高いという特徴があります。外出による環境やケアの変化など少しのことが健康や命にさえ影響することがあります。しかしながら彼らに用意されている障害福祉サービスは、集団生活を主とした「通う」「預かる」「入所する」といったものがほとんどです。ご本人のためだからと「頑張って通いましょう」と促したり、通う先の支援体制、看護師の配置、合理的配慮を整えることで全てが解決すると考えることは、一人ひとりのいのちの在り方を認め、“心身がそのままの状態”で尊重される”社会とは言えません。

「通う」ことが難しい超重症児者に対しては未就学期の保育や療育も十分でないまま、学齢期になると主に特別支援学校訪問籍で学びます。その後卒業を迎えると、社会との繋がりや人との出会い、学ぶ機会が急激に減少してしまうのです。それらを保障するため、訪問カレッジ「Be Prau」は、その方の“そのままの状態”を尊重する、「訪問型」の生涯学習支援を行います。

ステージ	未就学児	小学校	中学校	高校	青年期以降
年齢	出生	1 2 3 4 5 6	7 8 9 10 11 12	13 14 15 16 17 18 19 20	40 ~ 65
ライフイベント など		小学校入学	中学校入学	義務教育終了 高校卒業	
教育 発達	療育センター・通園 児童発達支援	通学籍 特別支援	医ケア学校 看護師または 体調を崩して長期欠席したら学びない 放課後デイサービス	訪問籍 医ケア全て親	日中生活介護 自立訓練 就労継続支援A・B型 在宅で過ごす時間が 多いため家族の 医ケア負担大
医ケア 担当	居宅訪問型児童発達支援 (事業所が少ない)	訪問籍 学校	医ケア全て親 週3回90~100分の授業 在宅で過ごす	訪問籍 学校	訪問カレッジ「Be Prau」 「学び」「生き方」支援



調理実習で
ポテトサラダ

自宅は小さな“開かれた社会”

わたしの中の
多様性



カレッジサポーターと
ジェンガ♪

I'm Proud of you !
Be Proud of yourself !
Be the world we can be proud of !

多様な人との学び合い 目白大学
「訪問カレッジサポーター」

“ことばによらないコミュニケーション”の カレッジ生の「主体」を立ち上げる

特別支援学校において、「重度重複障害」「医療的ケアが必要」という特別ニーズに基づき、自立活動を主とした個別指導計画に基づく教育を受け、心理的安定、感覚や認知、人間関係の形成、コミュニケーションなどを身につけて卒業したカレッジ生たち。これから“障害者”としてではなく、“社会を生きる人”としての“学び”がはじまります。

“社会を生きる人”それはご自身の人生を「主人公＝主体」として生きる人。“ことばによらないコミュニケーション”をするカレッジ生たちが、ご自身の人生の主体として生きていくためには、自分自身がどのような生き方を望んでいるのかに気付くこと、支援する人がそれを知ることが必要です。

彼らとの“ことばによらないコミュニケーション”に長けた学習支援員だけでなく、地域で暮らす同年代の大学生や地域住民など、多様な“主体”と接する機会を保障することで、自分とは違いのちの在りようを目の当たりにし、ご自身の中の“多様な自分”“役割”への気づきを得ます。自分の“好き”と一緒に学ぶうちに、いつしかそれは色んな分野に発展した学びに広がりを見せ、「わたしの生きる世界はとっても広い！」という生きる喜びへと繋がるでしょう。

合理的配慮



学習支援員

興味関心



カレッジサポーター
地域住民など

わたしの人生の
主人公はわたし



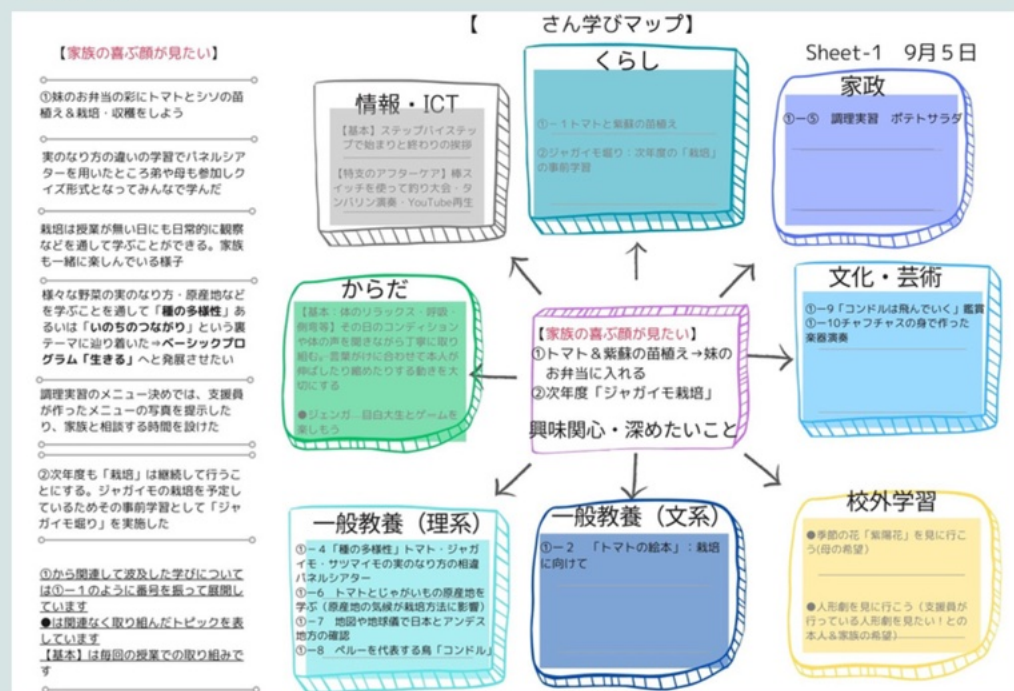
学習支援員とスタッフ



クリスマスパーティー
zoomでも楽しかった♪



夏休みにプレカレ体験
紫蘇の感触は？



「Be Prauリベラルアーツ」
実践報告動画



目白大学
「訪問カレッジサポーター」
紹介動画

訪問カレッジ「Be Prau」開校と共に目白大学地域連携事業「訪問カレッジサポーター」が始まりました。“一時の学生ボランティアとしてではなく、このサポーター活動をいかに社会実装していくか”との熱い思いで参加学生を組織して下さるのは目白大学保健医療学部作業療法学科の小林幸治教授。主に作業療法士・理学療法士を目指す学生たちが「Be Prau」のカレッジ生のお宅を訪問して一緒に授業をしたり、地域でのイベントや季節の行事などを共に楽しみ学び合っています。

目白大サポーターたちと「Be Prau」カレッジ生は同年代。それぞれ違うのち、生き方をしてきた若者たちが素敵なお縁で繋がり、同じ時間を過ごす。分離教育で育ちこれまで交わることの無かったそれぞれの道がここで交わったことは、この先に、共に認め合って暮らしていく地域が広がっていくことを期待させます。

趣味のキャンプに出掛けて凍えそうになったこと、ビーズのアクセサリ作り、大好きな紅茶のおすそ分け.....サポーターたちから聞く楽しいエピソードや趣味の場にカレッジ生が今日も目を輝かせています。

娘は生まれながらの「超重症児」である。お腹の中から出る寸前にへその緒が切れ酸素がいなくなったことで重い障害を負った。当時はまだ地域に資源も乏しく、十分な支援も無いまま自宅に連れて帰ったのは今から18年前のことだ。役所にヘルパーサービスの支給を願い出れば「お母さんがいるから不要」とはねのけられ、障害のある子どもの成長発達を支えるはずの療育センターに行けば「これほど重度の子が何かを習得できると思えない」と医師に言われた。世の中の制度、医療や福祉は娘を「規格外」としてもてあましたが、いのちはたくましく生きる。

初めて集団に属すことができたのは特別支援学校小学部に入学してからだ。通うことが難しいため先生が週3回自宅に来てくださる訪問教育では、じっくりと関わり小さな反応を見つけながら娘のアウトプットを大いに引き出してくれた。医学的には「何もわからない」とされた娘が次第に成長していく姿をつぶさに見てきて、いかにさまざまな学び、経験、人との関わりが大切であるか思い知った。

一方で保育や療育、教育、障害福祉サービスも「通う」が基本の世の中において、「通うことができない」ということが、どれだけその人の人生の選択肢を狭めるかということに愕然としてきた。まして「通うことができない」のは本人の心がけや努力とは無関係である。一般的に言われる「自立」が「親元を離れること」「集団で過ごすこと」など、どこかに「通う」ということに結び付けられていることも大きい。「通う」ことができないことで多くのサービスが利用できないということは問題だが、そのことを嘆くにつけ私はハッとする。障害があるからと言って私は娘の人生を障害福祉サービスにあてはめて考えるようになってはいないかと。本来大切なことは、本人がどのように生きたいのか、どこで誰とどんな風に暮らしていきたいか、である。



I'm Proud of you !
Be Proud of yourself !
Be the world we can be proud of !



この18年間、娘のいのちが守られ必要な医療や支援が受けられるよう行政に働きかけ続けてきたが、私は未だに18時間起き続け、16時間見守り、そのうち8時間は娘の排痰ケアをしなければいけない日がある。親は体力が続く限り、子どものケアの担い手が見つからなければその肩代わりをするだろう。しかし、子どもが自分らしい彩り豊かな人生を送ることができるような支援は、親だけでは担うことができない。

娘のように重い障害を持ちながら生きる人たちが一人の人間として尊重され、それぞれの意思表示の方法で丁寧なコミュニケーションが築かれ、お互いのいのちを誇りに思い合える、ゆるやかであたたかな繋がりが地域に広がるようにと願って止まない。

訪問カレッジ「Be Prau」はそのような地域をつくることをミッションとして「はじめの一步」を踏み出した。カレッジ生らの持つ力はすごい。これまで交わるはずもなかった人生同士が出会うという素敵な奇跡を次々と生み出している。私たちの生きている世界は広い。いろんないのちがあって、いろんな生き方がある。そのことを誰かと一緒に実感すること、それが「Be Prau」の「生涯学習」である。ぜひ、カレッジ生らのいのちを知り、健気で逞しい人生に触れ、その素晴らしい実感を共有して欲しい。



一般社団法人ケアの方舟

訪問カレッジ「Be Prau」



問い合わせ



SNS